※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１９

令和８年度　音楽科

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次 （体育科）
使用教科書	MOUSAⅠ　（教育芸術社）						
副教材等	合唱楽譜　ミュージックノート（教育芸術社）　自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の４つの分野を通して学習します。・学習の到達度は、学習の取り組み状況、実技における課題進度状況、学習プリント、創作曲、発表などを基に総合的に判断した上で決定します。また、成績が過去の音楽経験の有無によって大きく左右されることのないよう、授業における学習等達度によって評価します。・芸術祭での発表を大きな目標として、みんなで音楽を創り上げる喜びを共感しましょう。

２　学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
感性を高め、個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
音楽文化についての理解を深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	【歌唱・器楽・創作】 創意工夫をいかした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造的に表現している。 【鑑賞】楽曲の歴史的な背景や、創作の背景を理解し、特徴に気がつきながらよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	【歌唱・器楽・創作】 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて、表現意図を持っている。また、グループ活動においても、意見交流ができている。 【鑑賞】 音楽形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。また、グループ活動においても、意見交流ができている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	正しい発声法で日本や外国の歌曲を歌う(独唱)	【　歌　唱　】 発声法･呼吸法　日本、外国の歌曲	a: 曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて、イメージを持って音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法、読譜などの技能を身につけている。 b: 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせて、どの用意歌うか表現意図をもっている。 c: :歌う喜びを味わい、イメージをもってうたう学習に主体的に取り組もうとしている。曲想や歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心を持ち、イメージを持っ歌う学習に取り組もうとしている。	演奏の聴取	ノート	観察

※令和４年度以降入学生用

	リズム表現を楽しむ	【器楽】 リズムの読譜・記譜 ソルフェージュ(リズム) 【創作】リズム創作	a: リズム譜を読譜し、表現したいことを伝えるための技能を身につけている。 b: リズムの特徴や反復、変化を知覚し、その働きを感受しながら、表現したい音楽をイメージして、どのように音楽を作るかについて表現意図をもっている。 c: リズムや音価の組み合わせによって生まれる音型に関心をもち、演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	演奏の聴取	ノート	観察
1・2・3	音楽を聴く力をつける	【鑑賞】管弦楽曲	a: 楽曲の歴史的な背景や、創作の背景を理解し、特徴に気がつきながらよさや美しさを創造的に味わって聴いている。音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 b:音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。ま z た、グループ交流においても意見交流ができている。 c: ：管弦楽で扱われる楽器の種類や音色、旋律やリズムの特徴と表現の効果との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	ワークシート	観察・ノート	観察

※令和４年度以降入学生用

	表現を工夫したリコーダ演奏	【器楽】リコーダーの基本的な奏法	a: リコーダ-の音色や奏法の特徴、フレーズなどを感じ取り、それらを生かした音楽表現をするためにに必要な技能を身につけ、創造的に表現している。 b: 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、リコーダーの音色や奏法の特徴を生かして表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c: リコーダーの音色や奏法の特徴に関心を持ち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	演奏の聴取	ワークシート	観察
2.3	ハーモニーを作ろう	【歌唱】混声合唱	a: 各パートの役割や音の重なり方などを感じ取るとともに、全体の調和を意識しながら表現するための技能を身につけ、創造的に表現している。 b: :各パートの重なりや音の重なりなどを感じ取り、全体の調和を意識しながら音楽表現を工夫している。・曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりを理解し、楽曲にふさわしい音楽表現になるように工夫している。各パートの役割や音の重なり方、演奏者による表現の特徴やよさを味わって聴くとともに、言葉や文章を用いた表現活動に生かしている。 c: 各パートの役割や音の重なり方などに関心を持ち、全体の調和を考えて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。・曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりに関心を持ち、共通のイメージを持って楽曲にふさわしい合唱表現をしようとしている。	演奏の聴取	ワークシート・ノート	観察

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度